

◆ 今週のコメント

- ヘルパンギーナの定点当たり報告数は1.05(43例)で、先週(0.90)に比べやや増加し、本年度で最も多くなっています。週推移は、過去5年平均値(2.30)を下回っていますが、第21週以降増加しています。年齢階級別では、1～2歳が23例で、53.5%を占めています。
- 新型インフルエンザ(A/H1N1)患者の集団感染(クラスター)の報告は2件となっており、京都府(京都市含む)で3件、全国で172件となっています。

◆ 今週のトピックス: <手足口病>

今週の定点当たり報告数は1.22で、本年度で最も多くなっており、先週(0.63)に比べて急増しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- 四類: レジオネラ症(肺炎型) 2例【1月以降の累積報告数 5例】
- 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 12例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.16	11
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.71	111
	② 手足口病	1.22	50
	③ ヘルパンギーナ	1.05	43
	④ 水痘	0.78	32
	⑤ 突発性発しん	0.56	23
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、鼻咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体 (報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体 (報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
コクサッキーウイルスB 2型(1)	かぜ症候群(第18週)	NP	アデノウイルス2型 (5)	かぜ症候群(第21週, 第17週×2) 熱性けいれん(第20週) 感染性胃腸炎(第17週)	FC&NP NP×2 NP FC
ポリオウイルス1型(1)	腸重積症(第18週)	FC	黄色ブドウ球菌 (4)	かぜ症候群(第20週, 第19週×2) West症候群(第17週)	NP×3 FC
インフルエンザウイルス AH3型(1)	インフルエンザ(第19週)	NP	A群溶血性レンサ 球菌(5)	かぜ症候群(第21週, 第20週×2, 第17 週×2)	NP×5
A群ロタウイルス(11)	感染性胃腸炎(第20週, 第19週, 第18 週×6, 第17週, 第16週×2)	FC×11	B群溶血性レンサ 球菌(2)	外陰炎(第21週) かぜ症候群(第18週)	陰部尿道 頸管擦過 物 NP
ノロウイルスG II (2)	かぜ症候群(第18週) 感染性胃腸炎(第18週)	FC×2	肺炎球菌(12)	かぜ症候群(第21週, 第19週, 第18週× 3, 第17週×3, 第16週) 感染性胃腸炎(第19週, 第18週) ヘルペス口内炎・歯肉炎(第18週)	NP×12
アデノウイルス1型(1)	かぜ症候群(第16週)	NP	インフルエンザ菌 b型以外(2)	かぜ症候群(第18週) ヘルペス口内炎・歯肉炎(第18週)	NP×2

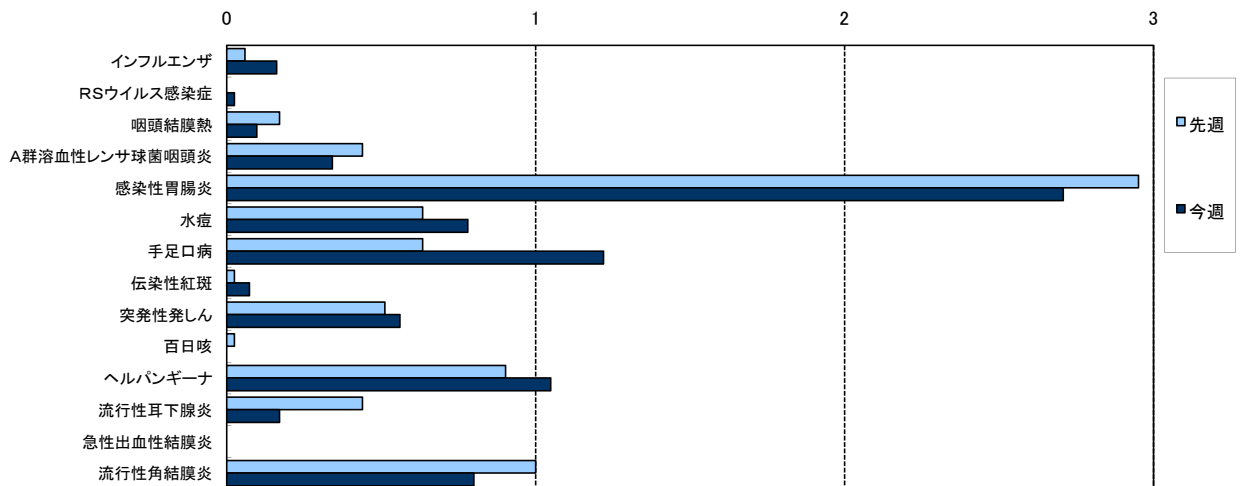
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <手足口病>

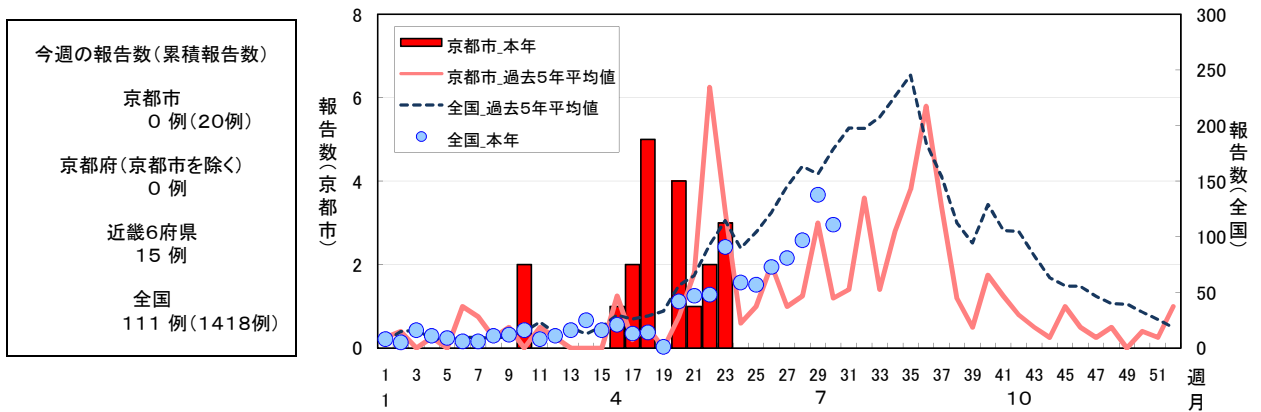
(注) 京都市のデータは、平成21年7月30日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第30週)と先週(第29週)の定点当たり報告数の比較

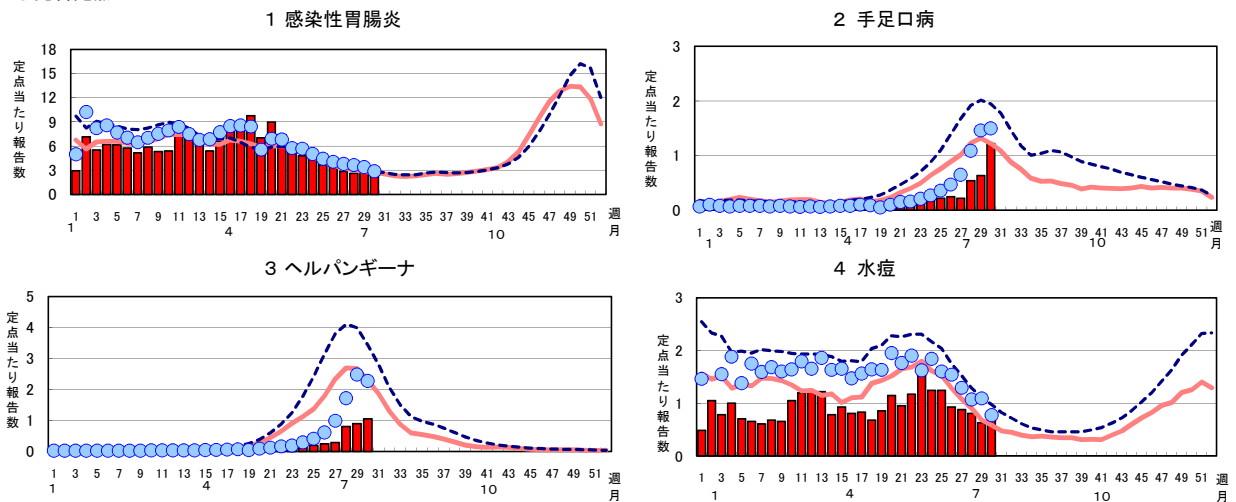


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

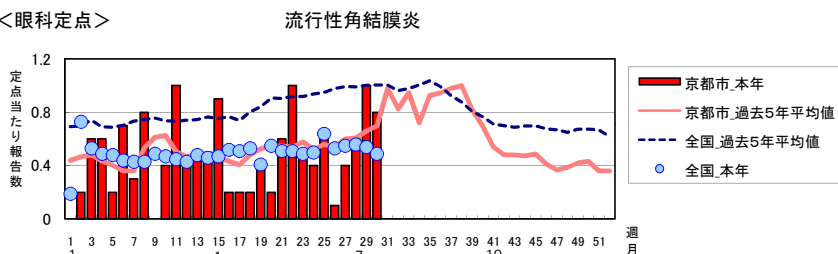


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



今週(第30週)のトピックス: <手足口病>

今週の定点当たり報告数は1.22で、本年度で最も多くなっており、先週(0.63)に比べて急増しています。推移をみると、第27週以降増加傾向を示しています。また、全国でも、今週が最も多くなっています。

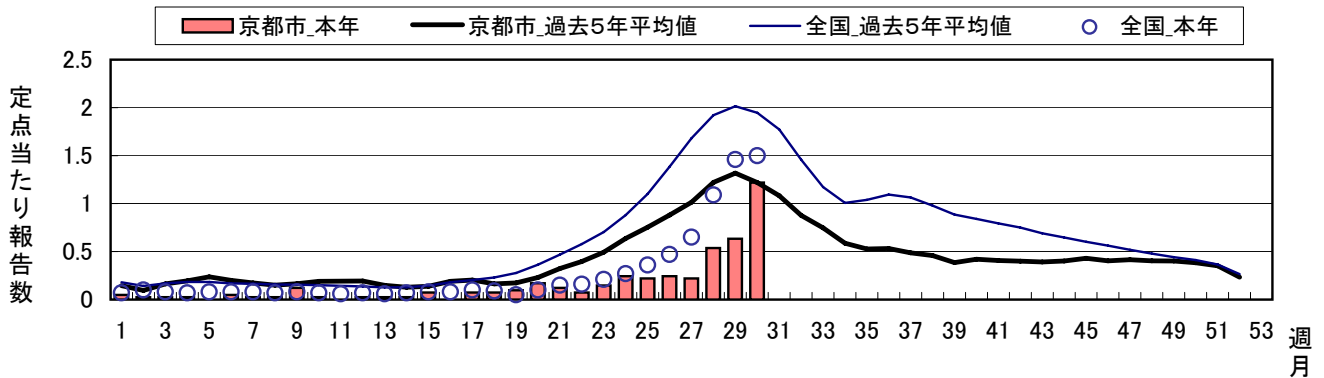
年齢別報告数割合では、全国及び本市とも、1歳が最も多く(本市28.0%、全国28.7%)、2歳以下の割合が本市では58.0%、全国では56.7%を占めています。

行政区別では、先週に比べて11行政区中、7行政区で報告が増加しており、特に西京区で顕著に増加しています。

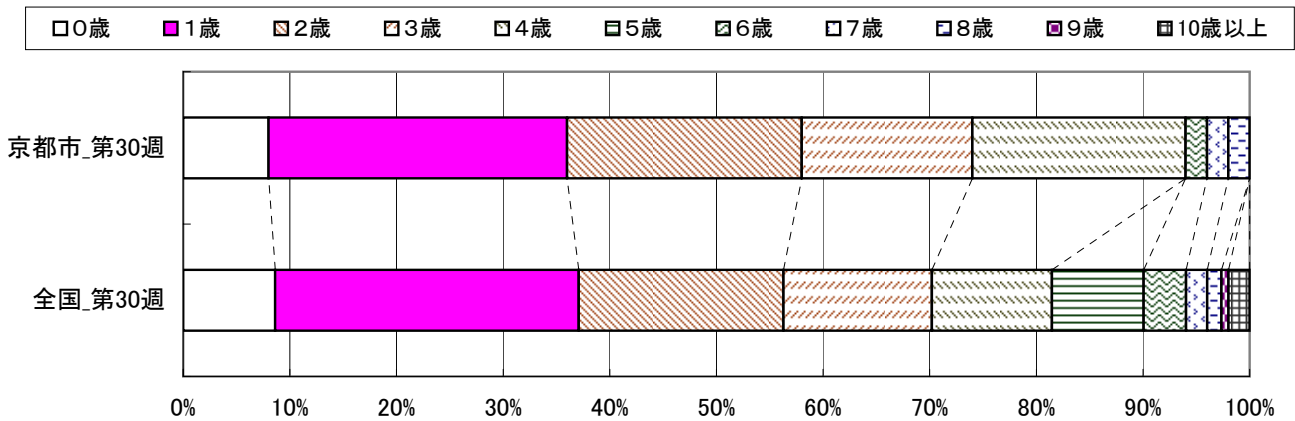
手足口病由来ウイルスのなかで、髄膜炎などの中枢神経疾患を合併する割合が高いエンテロウイルス71型は、7月30日現在、全国では6例です。なお、過去3年の年報告数は、平成18年258例、平成19年110例、平成20年22例です。

(参考)国立感染症研究所感染症情報センターの病原微生物検出情報 (<http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/s2graph-kj.html>)

本市及び全国の定点当たり報告数の推移(第1週～第30週)



年齢階級別報告数割合



行政区別定点当たり報告数の推移(第28週～第30週)

